

## 【議案 1】

# ESD-J 2019年度 事業報告（案）

<2019年4月1日～2020年3月31日>

## I. 概要

2019年度もESDをより一層推進するためのESD活動推進ネットワークの構築をめざして、ESD活動支援センターを主軸に据えた活動を展開した。本事業においては次項に記載したように、当初5年間のESD活動支援センター業務の最終年度にふさわしい成果を上げることができた。また、市民が主体となったESD事業においては、新規事業として、2019年度文科省ユネスコ活動費補助金事業、GAP最終年にあたってのGAPレビュー、継続事業として、岡山市のESDコーディネーター研修、各種イベントの主催などに取り組んだ。国際事業としては、これまでのESD-Jの活動について各種国際会議を通じて国際発信をするとともに、今後の展開を図るためのネットワークの構築に努めた。これらの主なESD推進事業と共にESDカフェなどを通じた会員間の交流やESDの普及に努めた。また、組織基盤強化としては新たな事務局長を迎え、懸案であった事務局の強化を実現した。

2019年度は以下の事業に取り組んだ。

### ◎ESD推進事業

- ESD 活動支援センター事業
- 市民が主体となったESD事業
- 国際事業
- その他事業

### ◎運営体制、及び組織基盤強化

## II. ESD推進事業

### 1. ESD活動支援センター事業

日本の提案により開始された「国連ESDの10年」の後、2015年～2019年にかけて世界的に推進された「ESDに関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）」を受けて、我が国は2016年3月に「我が国における『持続可能な開発のための教育（ESD）に関するグローバル・アクション・プログラム』実施計画（ESD国内実施計画）」を策定し、ESDの推進に努めてきた。この計画に基づき、ESD-Jからの提案も踏まえ、全国的なESD支援のためのネットワークの体制整備が進められ、2016年4月には文部科学省、環境省による官民共同の仕組みとして「ESD活動支援センター（全国センター）」が開設された。さらに、2017年7～9月にかけて8つの「地方ESD活動支援センター（地方センター）」が開設され、2017年11月からは地域におけるESD活動の推進・支援窓口となる「地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）」の登録が始まった。

2016年4月の開設以来、ESD-Jは公益財団法人ユネスコアジア文化センター（ACCU）と業務提携し、全国センター業務を運営してきた。全国センターは、地方センター、地域ESD活動推進拠点（地域ESD拠点）、全国規模のESD推進組織・団体、企業等との連携のもとに、主に以下の活動を行った。

- ① ESD活動に関する相談・支援窓口の運営

## 【議案 1】

- ② ウェブサイト、SNSを用いたESD・SDGs関連情報の収集・発信
- ③ ESD推進ネットワーク全国フォーラムの開催
- ④ 地域ESD拠点の形成・強化支援
- ⑤ ESDを推進する全国規模の組織・団体との関係構築と連携強化
- ⑥ ESD推進ネットワークの可視化とその共有
- ⑦ ESD関連事業の後援
- ⑧ 講師派遣・紹介
- ⑨ その他、国際フォーラムの開催等ESD推進ネットワークの促進に資する活動

これらの活動の結果、2020年3月末までの4年間に地域ESD拠点として登録した団体が120に増加する等、ESD国内実施計画に示されたネットワークの体制の基盤整備が大きく進んだ。

### 【ESD推進ネットワークの構築に向けた過去4年間の活動の概要】

	2016年度 (平成28年度)	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)
基本的事項	全国センター開設	地方センター開設	地域ESD拠点推進	ネットワーク本格稼働
全国センター	開設、情報インフラの整備	機能整備	一層の機能整備	ネットワークの稼働状況の確認と改善
地方センター	開設準備	開設（7～9月）	機能強化	ネットワークの稼働状況の確認と改善
地域ESD拠点		地域ESD拠点登録開始（11月）	登録の推進	登録の推進

特に、2019年度は、GAPの終了年、ESD国内実施計画の最終年度に当たり、大きな節目の年だった。国際的には、GAPに代わる新たなESD推進の国際枠組みである「持続可能な開発のための教育：SDGs達成に向けて（ESD for 2030）」が12月に国連総会で採択された。我が国は、ESD国内実施計画のレビューを行うとともに、「ESD for 2030」を踏まえた新たな国内実施計画の策定に向けた準備を進めた。

そのような状況を踏まえ、ESD-Jは、ESD活動支援センターの活動の一環として、上記のルーティーン的な活動に加え、2016年度からの4年間のESD推進ネットワークの成果と課題等を「ESD推進ネットワークの成果概要（2016-2019）」として取りまとめた。成果概要では、ESD推進ネットワークがESDを推進するために有効であり、大きな潜在力を持つことが見えてくるとともに、地域ESD拠点の機能強化、協力団体や企業、自治体の位置づけの明確化などが今後の課題であることが明らかになった。

また、環境省との契約により、国内実施計画期間における成果に関するESD関係者からのヒアリングを行う等、ESD国内実施計画のレビューを支援するための調査を行った。

## 2. 市民が主体となったESD事業

### （1）2019年度ユネスコ活動費補助金（SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業）

（ア）補助事業名「SDGsの視点から企業と連携したPBLを行うことによる地域の担い手を育てる教育」

（イ）事業期間 2019年4月15日～2020年2月28日

（ウ）事業の目的

## 【議案 1】

「羅臼の子どもたちが持続可能な羅臼の創り手として必要な能力を身につけられるカリキュラムを開発・実施する」ことである。具体的には、幼小中高を貫く教育課程「知床学」を地元企業や主体と連携してPBLとして開発・実施することにより、過疎化と少子高齢化が進む同地域に愛着を持ちSDGs 達成の担い手を育てる教育のモデルを開発し、全国に発信することを目指す。

### (エ) 事業内容、成果及び課題

#### 1) 事業内容

- |   |               |
|---|---------------|
| ① 東京都市大学・伊藤通子教授によるPBL研修及びヒアリング              | 2019.5.20～22  |
| ② ESD-J総会後の「車座トーク」での金澤先生の講演及び羅臼の課題解決ワークショップ | 2019.6.23     |
| ③ 生徒を対象とした生活アンケートの実施                        | 2019.6        |
| ④ 羅臼未来中学校の授業参観及び地元起業家へのヒアリング                | 2019.7.16～19  |
| ⑤ 教員を対象としたアンケートの実施                          | 2019.9～2020.2 |
| ⑥ 小学校校長へのヒアリング及び地元キーパーソンとの打合せ               | 2019.9.11～13  |
| ⑦ ケンタロオノ氏の中高合同講演会（特別授業）                     | 2019.10.8     |
| ⑧ 船舶借り上げによる知床岬海上巡検授業の実施（高校3年生）              | 2019.10.10    |
| ⑨ 全国幼児教育ESDフォーラム2019で事例発表（教員）               | 2019.10.18～19 |
| ⑩ 幼稚園園長へのヒアリング及び地元キーパーソンとの打合せ               | 2019.11.7～9   |
| ⑪ エコプロダクツ展参観と対馬学フォーラム参加発表（高校2年生）            | 2019.12.6～8   |
| ⑫ 地元キーパーソンと学校の先生によるブレインストーミング実施             | 2019.12.6～8   |
| ⑬ 第9回羅臼町ユネスコスクール研究発表会                       | 2019.12.7     |
| ⑭ 日能研代表取締役高木幹夫氏による講演及び参加者との対話               | 2020.1.14     |
| ⑮ 事業の検証と今後の可能性について情報収集（ヒアリング）               | 2020.2.10～12  |
| ⑯ 第7回全国海洋教育サミット参加発表（高校生）                    | 2020.2.15     |

#### 2) 成果及び課題

「知床学」を幼稚園から高等学校まで一貫して実施し、その成果を町内で開催された「ユネスコスクール研究発表会」や「対馬学フォーラム」、「全国海洋教育サミット」で発表することができた。また、児童・生徒の学びを支える地域の学校応援団「(仮称) 学校支援協議会」の原型を地元のキーパーソンを核にして立ち上げることができた。しかし、児童・生徒の実態や教職員の意識はESDに向かっているとは言えない。課題は、協議会を核として様々な主体の参加により、生徒主体の学び（PBL）となるように「知床学」をブラッシュアップし、「知床学2.0」として改訂し、よりよいESDの学びを支援することである。

### (2) ESDコーディネーター研修の企画・運営

岡山地域「持続可能な開発のための教育」推進協議会（略称、岡山ESD推進協議会）の委託を受け、岡山市市民協働局ESD推進課が事務局を担い、中国地方担当理事である池田満之が現場実務を担当した。

(ア) 事業期間 2019年6月3日～2020年3月16日

#### (イ) 事業の目的

本業務は、「岡山ESDプロジェクト2015-2019基本構想」の重点取組分野に掲げている「人材育成」の一環として、「ESDコーディネーター研修」を企画・実施し、ESDコーディネーターとして必要な考え方やスキルを身につけた人材を育成するものである。実施にあたっては、岡山地域の人材を活用することで、研修のノウハウを岡山地域に蓄積できるようにしている。

#### (ウ) 事業内容、成果及び課題

5年目の2019年度は、「SDGsを視野に入れた地域づくり」をテーマとし、「実践事例から学ぶESD

## 【議案 1】

企画書のつくり方」をメインに行った。受講生は約20名で、岡山市勤労者福祉センターを会場に行った。主な内容は、以下の通り。

- 1) 第1回集合研修（11月1日）「ESD・SDGsの基本情報の共有」「事例から学ぶESD・SDGs」「企画の基礎の共有」「企画の前提条件と企画意図の整理」
- 2) 第2回集合研修（11月29日）「企画の前提条件と企画意図のわかちあい」「ESDによる企画づくりの方法を事例から学ぶ」「企画の概要書を書いてみる」
- 3) 個別相談会（12月6日等）「ESDの視点を持った企画書づくりについての個別相談」
- 4) 第3回集合研修（1月24日）「企画書の発表とフィードバック」「企画の練り直しと弱音吐きタイム」「Q&A（皆の疑問を皆で考える）」「全体総括、ふりかえり」「修了証の授与」

研修を行ってみて、何のために行うのかという最終ゴールとなる「目的」が見通せていなかったり、「目標」が達成できる現実的なサイズでなかったり、前提部分に思い込みが強すぎたりと「背景」が深掘りできていない（根源を問う、深い問いができていない）人もいた。「マーケティング分析」（「提供される人」の視点）と「ポテンシャル分析」（「提供する人」の視点）をしっかりと身に付けてもらう必要があると感じた。

また、受講生の振り返りから、「ESDは問い、SDGsは答えだと分かった」「ESDコーディネーターの役割と望まれる資質、ESDとSDGsのそれぞれの役割の違い、ESDの企画づくりノウハウが分かった」「自分の思いを掘り起こすことが、深い問いにもつながってくるということが分かった」など、この研修がとても有意義であったことが確認できた。今後も、こうした人材の育成、学び合える場や、つながれる場づくりに貢献していきたい。

### （3）GAPのレビューに関する業務

（ア）事業期間 2019年9月3日～2019年11月30日

#### （イ）事業の目的

2019年度、「ESD for 2030」の国内実施計画の策定に向けて、政府による「我が国における持続可能な開発のための教育（ESD）に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）実施計画の最終年における評価」（活動内容、成果、課題、今後に向けた提案等の把握）が行われた。これに対応して、ESD-Jでは、理事、会員、元理事を通して国のGAPのレビューで拾えないきめ細かな現場の声（民意）を拾って、このプロセスに反映させるための政策提言に取り組んだ。

#### （ウ）事業内容、成果及び展望

ESD-Jがウェブアンケートにより集めた現場の声としては、以下のような内容が挙げられた。

- ① 『ESD促進に関する活動の主な問題や課題』としては、「20代後半～50代の層の活動者が少ない」「担当者の異動で継続・深化が難しい」「活動資金不足」「活動評価の可視化が難しい」などの問題が、「ESD推進のためのコーディネーター・リーダーの育成」「学校教育におけるESD、SDGsの推進」「企業及びユース世代への普及」などの課題が挙げられた。
- ② 『どのような取り組みを行ってきたか』としては、「勉強会の開催」「広報面の工夫、様々な分野での位置づけの工夫、協賛者探し」「担当者に焦点を当てたネットワーキングとホールスクールアプローチの推進」「地域活動の核となる市民センターや公民館等を中心に、ESD出前講座、ESDコーディネーター育成講座、館長及び活動者の交流会等を実施」「ユースの登録バンクを作りメーリングリストを作成」「企業との協働推進、地域リーダー養成」などが挙げられた。
- ③ 『今後、取り組んでいきたいこと』としては、「学校とノンフォーマル教育機関との連携や市民社会・NPO/NGO・行政との協働による持続可能な学校、地域づくり」「ESDはSDGs達成のために必要な人材育成と位置づけ、教育現場・企業内でESDの普及への相乗効果を狙っていく」などが挙げられた。

## 【議案 1】

- ④ 『今後更にESDを推進するための要望を含めた意見・提案等』としては、「SDGs達成のためにもESDが重要であることをしっかり周知・普及してほしい」「ESD地域コーディネーターを配置するなど、様々な分野におけるESD専門職（コーディネーター）設置の制度化、勇気をもって変革に取り組むリーダーシップを持った人の育成に取り組んでほしい」「政府の方針がより一層ボトムアップで作成されるように、多くの人の声を聴く場を設定してほしい」「ESDの推進は、文部科学省、環境省が中心であるとしても、多くの省庁にまたがる活動であり、一層の省庁間連携を進めていただきたい。そのため、ESD関係省庁連絡会議のより効果的な活用を図るとともに、特に、外務省、消費者庁、国土交通省、農林水産省、経済産業省等との積極的な連携・協力を進めていただきたい。」などが挙げられた。

ESD-Jは、これらの声を国内実施計画に反映させるべく、今後も政府に働きかけていく。

### （4）イベントの主催、実施

今年度は、ESD Caféを3回開催し、会員、一般の方々にESD-Jの活動、並びにESDに関連する様々な活動に関心を高めてもらい、ESD的な行動を起こすきっかけ作りを積極的に創造した。詳細は以下の通り。

#### ①第3回 ESD CAFE TOKYO レッジョ・エミリア研修（イタリア）講和&ワークショップ

- 日 時：2018年5月18日
- 参加者：14名
- 講 師：コミュニティー・スペース北坂戸ほんわか・平山雄大さん
- 内 容：イタリア・レッジョ・エミリアの教育研修の経験をお話いただいた。
- 成 果：色々な立場の参加者とその教育方法や日本の教育の課題・展望等について意見交換した。この機会がESDに関心の高い教育関係者間のネットワーキングの場の提供にも繋がった。

#### ②第4回 ESD CAFE TOKYO 夏休み企画「ぜつめつきぐしゅってなぁに？」講和&ワークショップ

- 日 時：2019年7月27日
- 参加者：29名
- 講 師：スナドリネコ研究者 / WilCoLa代表・鈴木愛さん
- 内 容：絶滅危惧種のスナドリネコの置かれた環境と社会状況について説明していただき、後半のワークショップではスナドリネコをめぐる3つの対立する関係性を取り上げ、対立解消手法（Conflict Resolution Method）を用いたロールプレイを行った。
- 成 果：参加者には利害対立の解消の難しさ、背景の事情の複雑さなどを体験してもらい、人間の生活の維持と野生動物の保護の両立について考えるきっかけを提供した。

#### ③第5回 ESD CAFE TOKYO 国の天然記念物『ニホンヤマネってなぁに？こまっていることって？』講和&ワークショップ

- 日 時：2020年2月22日
- 参加者：14名
- 講 師：(公財) キープ協会清泉寮やまねミュージアム担当・饗場葉留果さん
- 内 容：『ニホンヤマネ』の身体の特徴や生態、ヤマネを取り巻く課題、生態系などについてお話いただき、後半のワークショップでは、羊毛クラフトでヤマネ作りをした。
- 成 果：これまで漠然とした知識だった地球温暖化等の環境問題が、「ヤマネを守ること」と結びついたことで、具体的に取り組むべき課題として、参加者に認識されるようになった、自らの行動を変えたいという思いが過半数の参加者に生じたという成果があった。

## 【議案 1】

た。

### 3. 国際事業

#### (1) ESD-J 主催のセミナー、勉強会、シンポジウム等の開催

2019年度において、ESD-Jが直接主催したセミナー、シンポジウム等はなかったが、ESD-J理事が以下の国際分野での活動に関わった。

##### ① 韓国環境教育学会30周年記念国際会議での発表と交流

2019年6月、韓国・青州教育大学にて開催された韓国環境教育学会30周年記念国際会議に代表理事の阿部が講演者として招待され、日本の環境教育/ESDの制度化について発表を行うとともに韓国・中国・台湾・アメリカ・ブラジルのESD関係者と交流を行った。

##### ② ソロモン諸島におけるESD推進についての協議

2019年7月、ソロモン諸島総督一行との環境教育懇談会（於：日本環境協教育フォーラム事務所）に代表理事の阿部が参加し、両国のESD交流について協議を行った。

##### ③ シンガポール日本人学校チャンギ校、クレメンテ校教員に対するESD講演

2019年7月、理事の鈴木がシンガポール日本人学校チャンギ校の視察を行うとともに、チャンギ校にてチャンギ校、クレメンテ校の教員に対するESD講演「皆が明るく暮らせる未来社会に向けて～持続可能な開発のための教育（ESD）」を行った。

##### ④ TEMM（日中韓環境大臣会議）を通じた日中韓におけるESD推進への貢献

2019年10月、TEMM/TEEN（日中韓環境教育ネットワーク）第20回会合（於：中国・杭州市）に代表理事の阿部が日本の環境教育/ESDの20年について発表を行うとともに参加者と交流を行った。

##### ⑤ 世界環境教育会議（WEEC2019）でのセミナー等開催と発表

2019年11月、タイのバンコクで開かれた第10回世界環境教育会議（10th World Environmental Education Congress: WEEC2019）において代表理事の阿部が基調講演を行い、理事の鈴木等が発表を行った。

##### ⑥ 2019教師教育世界大会への貢献

2019年11月、岡山大学で開かれた2019教師教育世界会議（第10回ESDに関する教師教育機関国際ネットワーク会議）に理事の鈴木が参加し、DESD後を中心とする日本のESD活動に関するペーパー・プレゼンテーションを行った。

##### ⑦ 世界環境教育会議（WEEC2019）の国内報告会への貢献

2019年12月、ESD活動支援センターが地球環境パートナーシッププラザ（GEOC）で主催したWEEC2019の国内報告会に企画段階から参加し、2019年報告会に代表理事の阿部を含む多くのESD-J会員が参加した。報告会では、以下のような報告がなされた。

- ・ WEEC2019は、アジアで初めての世界環境教育会議であり、多くのアジアの研究者が参加した。
- ・ 主催者発表ではのべ1,800名の参加が得られた。
- ・ 3日間にわたり述べ9件のキーノートスピーチ、数百の口頭発表、パネル討議等が行われた。
- ・ 次回会議WEECは2021年10月にチェコのプラハで行われることとなった。

#### (2) アジアのESDに関するNGOネットワーク（Asian NGO Network on ESD: ANNE）

- ・ ANNEネットワークの再編に関する検討を進め、ESD-JとともにANNEの中核をなすインドの環境教育センター（CEE）の状況に関する情報収集、意見交換を行った。

## 【議案 1】

- ・ ANNEを中心とする国際活動を推進するための国内体制の整備・充実について関係者と意見交換を行った。

### 4. その他事業

#### (1) NPO活動のESD評価事業

NPO法人えひめグローバルネットワーク（以下、EGNと記載）との協働で「モザンビークESD活動記録のまとめ・評価協働事業」を実施した。

(ア) 事業期間 2019年6月1日～2020年4月1日

##### (イ) 事業の目的

- ① 2003年よりEGNがESDを軸として取り組んできたモザンビーク支援事業とESD実践（モザンビーク・日本国内）のとりまとめを行い、総合的評価の機会を得ることにより、EGNが育んできたモザンビークESD事例のまとめと検証を行うこと。また、その検証を基に次なる展開を検討する。
- ② 全体的なとりまとめを「モザンビークのESD～15年の歩み～」として行い、将来的に書籍としてまとめる方向性を検討する。
- ③ EGNの活動に対するESDの視点を用いた多角的な評価、分析をESD-Jが実施することで、ESD-Jが長期にわたり関わってきたNPOのESD的な活動の深化を可視化すると同時に、ESDの推進を加速していくための助言を行うことを目指した。

##### (ウ) 事業内容

具体的な内容としては、A. EGNのモザンビーク支援活動、ESD実践に関する記録、資料のまとめと、B. ESDを軸として継続展開してきた実践に対するESD評価の実施である。加えて事務局長の横田が2回愛媛県に出張し、関係者との打ち合わせ、方針の確認、資料の受領等を行った。本年度は、A.の業務を完了し、B. ESD評価指標の選定と、評価報告書の作成を2020年度の初旬に行い、報告書として提出する。

#### (2) グリーンチャレンジデー2019の「環境省環境教育推進室ブース」企画・運営

(ア) 事業期間 2019年10月5日（土）、6日（日）の2日間

##### (イ) 事業の目的

「GTFグリーンチャレンジデー2019 in新宿御苑」の環境省環境教育推進室のブース出展のお手伝いをした。テーマはエシカル消費を推進することに焦点を当て「私が変わると、世界も変わる！」とし、私たちが買い物をする行動が、野生生物と関係している事を説明し、消費行動に変化を起こすことを目的とした。

##### (ウ) 事業内容

ブース運営は、ガールスカウト、こどもエコクラブ、大学生（成蹊学園）にお手伝い頂いた。展示物は、2018年同様に、一般社団法人JEAN、全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）より、視覚的にインパクトの強い写真パネルやタペストリーをお借りした。また、今回はじめて、「プラ太郎・プラ子の旅」という紙芝居を上演した。紙芝居、展示、フリップによる説明、クラフトと様々な年齢層に訴えかける多角的なアプローチを試みた。

##### (エ) 成果

ブースの訪問者、合計132名にアンケートに答えていただき、「クラフトを体験し、展示等を見た後で、買い物する時の視点が変わったか？」という質問に対して、7割を超える人が「はい」と答え、消費行動の変容を促すことができたことが確認できた。

#### (3) SDGsを踏まえた地域課題への取組促進のための人材育成

## 【議案 1】

- ・地球環境基金「つづける助成」として、「ESD+SDGsで地域・学校を変える全国版研修システムの構築」（3年間事業、申請額2020年度約300万円）を申請したが不採択であった。育成したい人物像やその活用が明確ではなく、またテキスト等の利用・普及方法が明らかでないとの理由からである。
- ・申請内容は、SDGsの採択、ESDの新たな世界的枠組みの採択を受け、これまで実施してきたESD研修の見直しを行い、SDGsの達成に貢献するための人材育成（学校づくり・地域づくりのコーディネーター・リーダー養成）を実現するためのSDGs・ESD研修を、ESD-Jの全国ネットワークを活用して全国6ブロックで定期的に行う仕組みを作るものとした。

## III. 運営体制、及び組織基盤強化

### 1. ESD-J運営体制

#### (1) 役員

役 職	氏 名
代表理事	阿部治、重政子
副代表理事	池田満之
理事	池田誠、大塚明、川村研治、小金澤孝昭、下村委津子、新海洋子、鈴木克徳、小松柊成、大島順子、鳥屋尾健、眞鍋和博
監事	浅見哲、吉岡睦子
顧問	池田香代子、岡島成行、廣野良吉、高木幹夫

#### ○役員役割表

役 割	氏 名
組織運営理事	阿部治、重政子、池田満之、鈴木克徳、川村研治、大塚明、小金澤孝昭
総務・労務・経理担当理事	重政子、池田満之、大塚明
センター事業担当理事	【センター長】阿部治、【人事労務、経理総括】重政子 【副センター長】鈴木克徳
広報担当理事	池田満之、川村研治、小松柊成
ステークホルダー間の連携担当理事	【学校】大塚明 【国際協力、開発分野】池田誠
地域担当理事	【北海道】池田誠【東北】小金澤孝昭 【関東】川村研治、鳥屋尾健、大塚明【近畿】下村委津子 【中国】池田満之【四国】小松柊成【北陸・東海】新海洋子 【九州・沖縄】眞鍋和博、大島順子
監事	浅見哲、吉岡睦子
顧問	池田香代子、岡島成行、廣野良吉、高木幹夫（2019年6月1日～2021年5月31日迄）

※川村研治理事は、2020年4月4日のESD-J臨時理事会をもって退任した。



## 【議案 1】

### (2) 事務局

役 割	氏 名
事務局長	横田美保 (2019年5月1日着任)
事務局スタッフ	後藤奈穂美、武田朋子、齋藤さおり
ESD活動支援センタースタッフ	渡辺五月 (2020年3月31日迄)、金沢信幸 (2020年3月31日迄)、志村真美 (2019年6月30日迄)、落合真優 (2019年10月15日～2020年3月15日迄)、牧野朝香 (2020年3月16日～)

#### <会員>

※2019年度の会員数 (2018年度の会員数)、差異を表示

種 類	会員数	種 類	会員数	種 類	会員数
団体正会員	25 (35) -10	団体準会員	14 (10) +4		
個人正会員	53 (44) +9	個人準会員	65 (49) +16		
賛助会員	4 (5) -1	特別賛助会員	1 (1) ±0	連携交流団体	5 (5) ±0

## 2. 組織基盤強化

### (1) 事務局活動の強化

- ・専任事務局長が2019年5月に着任し、事務局の効率的な業務実施体制の整備を図った。
- ・経理業務の効率化のためオンラインバンキングを活用し、また寄附・会費の支払いのためにインターネット決済を導入した。Giveone (パブリックリソース財団) のマッチングファンドキャンペーンへの参加や、Syncableを通じた活動の広報、インターネット決済の導入で会費や寄附が集まりやすい仕組みが構築できた。

### (2) 効果検証に基づく情報発信の強化

WEB解析ツール「Google Analytics」を利用し、2019年4月1日より2020年3月31日までの期間、サイトを訪れるセッション数 やユーザー数、ページビュー数、アクセスの経路等の分析を実施した。また、「Google Search Console」というツールでは、「どのような検索ワードで検索されたか」「表示の頻度」「クリックの回数」について調べた。

#### ① セッション数

12,461回で (2017年8,908回、2018年12,253回)、昨年度より208回増加であった。うち79%は新規セッションであった。

※注) セッション数とは、ユーザーがサイト訪問した回数を意味し、別名「訪問数」とも呼ぶ。

ESD-Jのサイトまでの流入経路は、サーチエンジン7,201 (57.7%)、アプリやSNSのリンク3,751 (30%)、他のサイトからのリンク858 (6.8%)、ソーシャルメディア (FB、Twitterなど) 650 (5.2%) となっている。使用デバイス別に見ると、PCが48%、モバイルが47%、タブレットが5%となっており、モバイルがPCと同じくらいの率で利用されている事が分かる。

#### ② ユーザー数

9,956ユーザー (うち新規が9,870ユーザー) であった。

参照元割合は、Google38%、直接31%、Yahoo18%、モバイルFacebook3%、サーチスマートDocomo1%、1%以下は、JICAパートナー、GEOC、Facebook,.com、sogou、Wikipedia。

※注) ユーザー数とは、指定した集計期間において、サイトへの訪問した人数から重複を除いた人数。

#### ③ ページビュー数

## 【議案 1】

54,996PVで（2017年50,320PV、2018年53,647PV）であり、3年連続で増加傾向にある。  
1セッション当たりのページビュー平均は、4.41PV（昨年の4.7PV）。

※注）ページビュー数とは、ユーザーがページを閲覧した回数でページごとの表示回数を把握することで、Webサイトのどのページやコーナーにユーザーの注目が集まっているのか知ることができる。

### ④ Facebookの年間投稿数

94件であった。ESD-JのFBサイトを見た人は29,747人、ESD-JのFBサイトが表示された回数は40,225回であった。また、投稿された記事へリンクを張ったり、シェアしたり、コメントをするなど何らかのアクションをした人は1,774人（重複を除く）であった。

### ⑤ Google Search Consoleのデータ

検索サイトから検索して、ESD-Jが表示された回数は、25.3万回、そのうちクリックしてサイトに入ってきた件数は、6,630回であった。また、表示されたサイトからESD-J内のページをクリックして見た割合が2.6%となった。サーチエンジンでESD-Jが100回表示されたうち3回はサイトへの呼び込みが成功していることになる。また、平均掲載順位については、14.4位であった。検索エンジンのトップである1位に掲載されるのがもっともクリックされる確率が高くなり良いことになる。

昨年から引き続き、FBなどのSNSで拡散する方策をとっているため、WEBサイトに訪れる約4割のユーザーが、外部SNS等のリンクからという結果となった。

## IV. 総会・理事会等

### <総会>

通常総会 2019年6月23日 日能研西日暮里校4F 会議室

### <理事会>

第1回理事会 2019年5月25日 日能研西日暮里校2F 会議室

第2回理事会 2019年10月19日 日能研西日暮里校2F 会議室

第3回理事会 2020年2月15日 日能研西日暮里校2F 会議室

### <理事懇談会>

第1回理事懇談会 2019年6月23日 日能研西日暮里校2F 会議室

第2回理事懇談会 2019年8月16日 日能研西日暮里校2F 会議室

第3回理事懇談会 2019年12月7日 電磁的方法による

### <組織運営理事会>

組織運営理事会 2019年4月14日 日能研西日暮里校2F 会議室

## IV. 協賛・後援名義の実績/ ESD-J理事の講師派遣等実績

### 1. 協賛・後援名義の実績

No.	種類	団体名	イベント・企画名
1	後援	公益財団法人 五井平和財団	平成31年度日本／ユネスコパートナーシップ事業「第6回 ESD日本ユース・コンファレンスの開催ならびにESD／SDGs推進に向けたユース世代の活動支援」 （開催日：①10/13～14、②2/16→※台風のため①2/15～16、②5/31に延期）

## 【議案 1】

2	後援	立教大学ESD研究所	自然エネルギー100%を実現した大学-大学がサステナビリティに果たす役割ー」（開催日：7/16）
3	後援	平和のための埼玉の戦争展 実行委員会	2019平和のための埼玉の戦争展（開催日：7/27～29）
4	後援	公益社団法人日本環境教育フォーラム	清里ミーティング2019（開催日：11/15～17）
5	後援	日本学術会議（フューチャー・アースの推進と連携に関する委員会 持続可能な発展のための教育と人材育成の推進分科会）	学術フォーラム「フューチャー・アースと学校教育：持続可能な社会と海洋の実現を目指して」（開催日：9/8）
6	後援	次世代エネルギーワークショップ 推進委員会	2019 年度 次世代エネルギーワークショップ （開催日：① 学生編（東京会場）9/3～9/4、②学生編（名古屋会場）11/16～17、③若手社会人編（東京会場）1/31～2/1）
7	後援	公益社団法人ガールスカウト日本連盟	コミュニティアクション チャレンジ100アワード （開催日：応募4/1～3/31、表彰式10/14 ※2018年度に応募のあった活動が対象）
8	後援	立教大学ESD研究所	第2回全国ESD・SDGs自治体会議 （開催日：10/25～26）
9	協力	一般財団法人持続性推進機構 環境人材育成コンソーシアム	令和元年度環境省事業「環境 人づくり企業大賞2019」 （開催日：①公募開始10/28、②募集締切12/26、③結果公表3/31）
10	後援	立教大学ESD研究所	シンポジウム「SDGs時代における企業による地域創生の現状と可能性」（開催日：12/2）
11	後援	第12回つなぐ人フォーラム開催事務局	第12回つなぐ人フォーラム（開催日：2/14～16）
12	後援	麴町納税貯蓄組合連合会	「税を考える週間イベント 納税で持続可能な国にしよう」（開催日：11/11）
13	後援	学校法人 成蹊学園	成蹊学園サステナビリティ教育研究センターイベント「ESD成蹊フォーラム2020」（開催日：4/5→※新型コロナウイルス感染拡大に伴い開催延期）

## 2. ESD-J理事の講師派遣等実績の要旨

活動内容	件数	受益者数
講演・講義	45件	5,087人
委員会委員	20件	261人
その他（イベント・ワークショップ実施、視察対応、研修会の運営、シンポジウム等の参加及びコーディネート、指導助言等）	21件	4,497人
合計	86件	9,845人

以上